



2024年11月4日から10日まで、5年ぶりに世田谷美術館にて開催された、イタル成城「PLAIN ART 2024」。 「空・心（再生）・夢」をテーマにした作品の数々、連日多くの方に足を運んでいただきました

①人材の採用・育成・定着に向けた取組の強化
障害者支援研修「ラーニング」サーポートターズ・カレッジ」の活用促進に尽力し、上半期は2600回の受講実績を上げました。計画的な受講を推奨することで、人材育成を図る環境整備に努めました。また、法人内講師による各事業所への出張研修では、主に障害者虐待防止・権利擁護研修を実施。各事業所においても、施設長が中心となり、ニーズに即した外部研修を積極的に受講させ、支援の質の向上を図りました。令和6年度4月より、年間休日の拡大（15日から120日）を図り、福利厚生充実と実質上の賃金アップを進めました。新人事考課制度では、個別人事評価を5段階から10段階に、賞与の月数の増減ピッチを0.05か月から0.1か月とし、令和6年度夏季賞与に反映。職員モチベーションを上げ、「やりがい」を提示し「対価」で報いる方針を具現化しました。施設間研修が定着し、人材交流や支援スキルの情報交換が進んできました。コロナ禍が落ち着き、施設行事も増えつつあるなか、他事業所の職員の応援も増え、お互いに助け合おうとする「仲間」としての関係が徐々に構築されてきています。半面で、メンタルを含む体調不調による休職者や退職者が一定数出ているため、下半期に実施

②事業基盤強化への取組み
今年度上半期の事業基盤強化策として、包括ケアセンター・グループホーム事業部に、理事兼務のゼネラルマネジャーを配することで、組織および事業の活性化を図りました。今年度初頭から定員120名を満床として赤字から脱却するとともに、体制強化支援事業加算等の助成を受けられる体制を積極的に整え、福祉活動収益の増大化を成し遂げています。当法人にとって最適な事業方向を明確化する、といった取り組み例では、イタル成城・パンブル、利用者の重度化・高齢化により夜間支援従事者の加配が不可欠なことから、2ユニットから1ユニットへの変更を協議。東

③共同生活援助グループホーム事業の活性化と老朽化対策
ゼネラルマネジャーの配置、パンブルの1ユニット化を通じ、経営の効率性や採算性を向上しました。グループホームの移転や建て替えについては、利用者の生活の質を保つことを第一に中長期的展望において再構築します。また、移転・建て替えに備え、2年前より「施設整備積立」を実施しており現在5千万円を計上しております。

令和6年度上半期理事兼務執行状況報告

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 勝崇



目次 contents
01 令和6年度上半期理事兼務執行状況報告
02 事業所通信 事業部からの情報発信
03 *阿佐谷福祉工房 *あけぼの作業所 *イタル成城 *目黒本町福祉工房 *パン工房ブクブク *包括ケアセンター・グループホーム *サポートウイズ *クローバー・マルコ
04 事業所通信 事業部からの情報発信 *すまいる高井戸 *さんまるしえ *ピヨピヨおうちえん(保育) *SDGs推進室
QRコードのご案内
いたるセンターホームページ
いたるセンターInstagram
いたるセンターフェイスブック

いたる賛助会入会のご案内
「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨でありました。
年会費 1口5千円(何口でも可)
郵便振り込み 001100712892
(問) 339217346 事務局 山本まで



事業部からの情報発信・事業所通信

すまいる高井戸 センター長 阿久津庄司

杉並区では、障害のある方の地域における自立を支えるため、相談支援体制を整備し実施しており、すまいる高井戸もその一端を担っておりますが、加えて、医療、保健、福祉、教育、就労関係機関のネットワーク構築を推進する中核機関として、「杉並区自立支援協議会」を設置しています。協議会は、様々な役割と機能を持っていますが、その中で「専門部会の設置、運営」という機能があります。具体的には、「相談支援部会」、「計画部会」、「高齢・障害連携部会」、「地域移行部会」、「医ケア児部会」などの部会があり、そこに今年度途中ですが新たに「地域生活支援拠点部会」が立ち上がりました。「障害を持った方が、地域で生活し続けるために何が 필요한のか」これは、大きなテーマであり、課題もたくさんありますが、この部会では、2つのワーキンググループ(緊急時対応ワーキンググループ、知的地域移行・強度行動障害ワーキンググループ)を立ち上げ、今後それぞれのグループで議論を深めていければと思います。また、令和7年1月より、私、阿久津は包括ケアセンターに異動となります。なお、後任のセンター長には若山大地統括リーダーが着任します。これからも、すまいる高井戸をどうぞよろしく願っています。

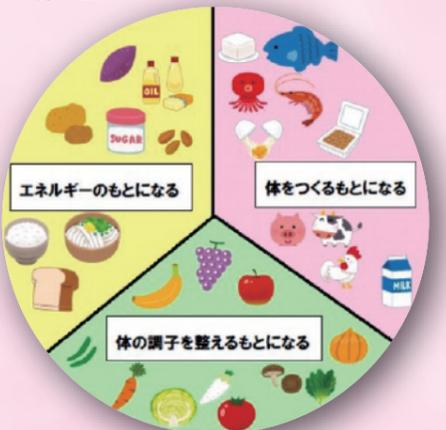


ピヨピヨおうちえん マネージャー 大上茂樹

ピヨピヨおうちえん両園の近くにはいたるセンター本部や地域ケアセンター等があり、保育園の行事では法人内の様々な方々にご協力いただく機会があります。写真は、ハロウィンで子ども達が本部や地域ケアセンターを訪れた時の様子です。職員の方々が一人ひとりに声を掛けて触れ合っていたその瞬間は、子どもたちも大人も笑顔に包まれます。このような行事を通して保育園職員だけではなく、様々な方々のまなざしで、子ども達の成長を見守っていただいていることを実感し、感謝しています。また、ピヨピヨ両園は姉妹園として、両園の子どもたちの交流や職員同士の交流も盛んに行っており、親睦を深めながら共に保育の充実と質の向上を今後も高めあっていきたいと思っています。



SDGs推進室 統括リーダー 渡邊菜都



企業で活躍されている障害のある方々に向けて食育研修を行いました。本研修では栄養バランスを整えるため、専門用語を避け、簡単に覚えやすい説明を心がけました。食品を写真のような3つのグループに分類し、それぞれの役割を色分けして説明しました。これからの季節、食生活を意識して乗り切ってください。

さんまるしえ 店長 表尚哉



今年の夏から、さんまるしえでは週末限定でケーキを販売しています。目黒本町福祉工房分室のパティシエさんのアイデアでスタートしたのですが、その季節の旬な素材を生かしたケーキはとても好評で、今では毎週楽しみに来店される常連さんがずいぶん増えました。この号が配布される頃は何ケーキが販売されているかはパティシエさん次第。販売する我々も、いつもとても楽しみにしています。



いたる広報委員

発行責任者=谷山 勝崇
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/2025年1月15日
ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。

もっと知りたい、お知らせしたい。いたるセンターのこと

QR codes and social media links for Itaru Center: Home Page, Instagram, Facebook.



事業部からの情報発信・事業所通信



■阿佐谷福祉工房

施設長 大澤宏



11月2日に5年ぶりに「阿佐福まつり」を開催しました。ふれあいコンサート、ポッチャ、ゲームコーナー、さおり製品等の販売を行い、前日に収穫した屋上農園の野菜をすべての来訪者にお配りしました。あいにくの雨にもかかわらずご利用者とご家族を中心に多くの方がお越し下さり、コンサートは満席で立ち見も多く、マヤさん特製豚丼とぷくぷくのパンも完売しました。ご協力いただいた皆様、有難うございました。

11月8日、15日、22日、29日に分けて日帰り旅行で群馬県にリンゴ狩りに行ってきました。天候にも恵まれ、車窓からは赤城山や榛名山の雄大な景色が望めました。リンゴ園では農園の方の指導でおいしいリンゴをいただきました。大きくて傷の無いリンゴを下から持ち上げるように・・・家に持ち帰り食べたリンゴはとても甘くておいしかったです！



■あけぼの作業所

施設長 山田弘子



生活介護で作った商品です。レジン液を型に流し、ちぎった和紙を入れUVライトで固めて完成。とても簡単に思えますが、かなりの手間暇がかかっています。実はこの商品に使われている和紙も手づくりしています。牛乳パックを細かくちぎり、ミキサーで更に細かくし、色付け、乾燥の工程を経て和紙ができあがり、その和紙をまた細かくちぎって、レジンと組み合わせ、この商品ができあがります。ちぎる作業はとても大変なのですが、ご利用者が集中して取り組んでいます。こちらの商品は11月のすぎなみフェスタから販売がスタートしています。今後も、販売イベントに参加していきます。

■イタル成城

施設長 安倍真紀

10月20日成城8丁目、エリザベト成城様とイタル成城を会場に「WAKUWAKUまつり」を開催いたしました。当日はお天気にも恵まれ、多くの地域の方にご来場をいただきました。アートワークショップでは、PLAIN ART2024で展示するクロスペーパーに地域の方やご利用者などに思い思いの絵を描いていただきました。

11月4日から10日まで世田谷美術館で開催したPLAIN ART2024は、期間中延べ500名の方にご来場をいただきました。展示スペースの一番奥にあるクロスペーパーの帯にみなさま感嘆されており、アンケートには「プラスのエネルギーをもらった」「パワフルさを感じてとてもワクワクした」等多くの嬉しいご意見やご感想をいただきました。5年振りの開催で、準備も手探りの中で行っていたこともあり課題も残りました。今後改善をしながら、今回いただいたご意見やご感想を励みに、次の機会に向けてPASSIONを織り重ねていきたいと思っております。



■目黒本町福祉工房

施設長 池田佳津男



目黒本町福祉工房ではコロナ禍以降、初めて宿泊訓練を行いました。生活介護事業部は10月31日、11月1日に、就労継続支援B型は11月7日、8日の2回に分けて横浜みなとみらいに行ってきました。久しぶりの宿泊訓練でしたので宿泊訓練に初めて参加する職員も多く、またご利用者の夜間の様子も十分把握できていない状況に加え、今回はホテルでの宿泊であったため何かと不安も多かったの

ですが、多くのボランティアの方々や他施設からの応援職員の皆様のおかげで大きなトラブルや事故もなく無事に終了することができました。ご協力いただいた皆様には改めて感謝申し上げます。この宿泊行事を楽しみにされていたご利用者も多く、皆さんとても楽しそうな表情でしたので満足して頂けたのではないかと思います。



■パン工房プクプク

統括リーダー 池田史暢

謹んで新年のお慶び申し上げます。旧年中は多大なるご支援賜り厚く御礼申し上げます。昨年は2022年より原材料・燃料等の高騰が絶え間なく続いており、加えて最低賃金の大幅な上昇と非常に厳しい環境になっております。一方で、外販では新規の企業様への販売をはじめ、企業様のニーズに応える形でキャッシュレス決済を7月から始めました。結果として、ある企業様では現金決済以上に利用され利便性が格段に向上されました。



本年の重点目標は荻窪店舗に焦点を当て、店舗しかない魅力を昨年以上に強調し地域により根差していくことを約束します。製品は揺るぎない安定・安全な品質の提供に取り組んでいきたいと思っております。成長・変革を意味する「巳年」にちなみ当事業所が固定観念にとらわれず挑戦し、スタッフ一同まい進していきますので引き続きご支援ご協力賜りますよう深くお願い申し上げます。

■包括ケアセンター・グループホーム

ゼネラルマネージャー 五木田義之

新年あけましておめでとうございます。あらためまして本年もよろしくお願いいたします。ご紹介したい数字があります。それは「23」です。これはグループホームで夜勤する職員の人数です。これは一日の単位であって、12月も1月もそれぞれ月に直すと713人になり、年に換算すると8395人となります。2名で夜勤にあたるユニット(簡単に言うと生活するフロア単位のこと)もあるので、1年では9000人に近い数になるはずですが、いわばこれだけの多くの職員関係者のおかげで1年という長くも長い時間において入居者の生活が守られています。無事に年の瀬を越え、新しいこの年を迎えられることに、支援に携わる皆さまに深く感謝申し上げます。日々彩りや希望を感じ、少しでも願う未来に近づける年になりますよう祈願して、皆さま本年もどうかよろしくお祈り申し上げます。



■サポートウイズ

マネージャー 林平

季節の変わり目は気温が不安定で、衣替えのタイミングも難しいですね。サポートウイズでは、ご利用者様への訪問時に寒さ対策の確認も行ってまいります。暖房器具やお布団、暖かい服を着ているもしくは用意しているかなど、体調管理にも気を配りながらサービスを提供しております。また、今年のように暑い日が増加すると、一度に降る雨の量も増えてしまいます。大雨の頻度が増えると、災害につながる危険性も増えます。そんな災害時に備え、サポートウイズも参加する阿佐谷北地域の集いの場「あさきたシルクロード」で災害時に水をあまり使わない防災食を紹介しました。ポリ袋でご飯とおムレツをつくりました。サバ味噌缶とカレー粉を混ぜたカレー、ミックスビーンズを潰して丸めたおはぎも簡単に美味しく頂きました。災害時は、まず命を守ること。そして、水や熱をあまり使わず、かつ衛生的に作れる災害食を知っておくと便利かもしれません。

■クローバー・マルコ

統括リーダー 加藤大貴

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。昨年クローバーは2024年12月16日～12月20日の期間に、老朽化していた内装の壁紙と床材の変更を行いリニューアルいたしました。改装後は、ブルックリンスタイルによるカフェテリアのような、ゆったりリラックスして過ごせるような雰囲気となっています。2025年は、自宅や通所・通学施設以外の第3の場所を担うべく、ホスピタリティの向上を図り、ご利用者の方に満足していただけるよう運営を行っていきたくと考えています。